



CAMPUS

Vol.
138

2022 AUTUMN
奈良工業高等専門学校

令和4年11月発行

〒639-1080 奈良県大和郡山市矢田町22

奈良工業高等専門学校 広報センター

TEL. 0743-55-6034 (CAMPUS担当)

ホームページ <https://www.nara-k.ac.jp>

メールアドレス gakusei@jimmu.nara-k.ac.jp

第56回高専祭



ロボコン近畿地区大会準優勝！
アイデア賞！ 全国大会出場！



速報! Aチーム全国大会優勝!

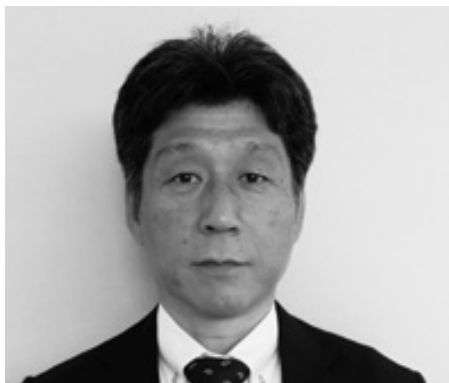
C contents

巻頭言	02
新入生の声	03
学外実習(インターンシップ)報告	04
社会工場見学報告	
学外研修報告	
学生の活躍 全国大会出場報告など	05
ロボコン2022 近畿地区大会	06
秋季スポーツ大会について	

第1回CyberSakura優勝について	07
JAXA観測ロケットS-520-32号機実験に参加して	
小学生向け3Dプリンター工作体験講座	
令和4年度前期 学生表彰 <特別賞>	
学生会新役員紹介・活動方針	
クラブ・同好会紹介(弓道部 合唱同好会)	08
学生支援センターから	
グローバル教育センターから	09
Library News~図書館だより~	10

I information

- ☆オンライン高専祭について
- ☆文化発表会(高専祭)について
- ☆学生課窓口の案内
- ☆キャンパスメンバーズ制度



榎 弘明

学生主事

2020年1月、日本国内で初めて新型コロナウイルス感染者が確認されました。2月には横浜港に停泊しているクルーズ船から多くの感染者が確認され緊張感が高まったことを覚えています。さらに、4月には東京や大阪など7都府県を対象に緊急事態宣言が発出され、その後、全国に宣言が拡大されました。社会を見てみると、人の移動が制限され経済活動がストップし、多くの人が新型コロナウイルスの猛威を感じたと思います。ただし、その後ワクチン接種がはじまり少しずつ社会活動は回復していきました。

ここで、興味深い文学作品「ペストの記憶」を少し紹介したいと思います。「ペスト」あるいは「ペストの記憶」は、1722年ダニエル・デフォーが発表した文学作品です。作品の中で、H.Fという語り手が1665年実際にロンドンで発生したペストについて見聞きたことを記録し、その状況を語り手の意見を入れながら物語は進んでいきます。ペストの死者の数や、当時の法律がそのまま引用されているので、一読するとペストを体験した人物によるルポルタージュのように見えますが文学作品なのです。

作品では、疫病に襲われた人々の様々な反応や疫病が集団としての市民心理に与えた影響、また、パニックに陥った集団の様子がリアルに詳しく観察され書かれています。恐ろしい病気が広まり始めた。このような状況下で人はどのような心理となり、どのような行動を取るのか。この作品から人間の心理を見ることが出来ます。この作品は、私たちが現在置かれている状況を再確認させ、答えのない状況でこそ個人の冷静さや心の強さが試されること、そしてコロナ禍を生きるため冷静な視点、正しく恐れる姿勢を教えてくれているように思えます。

ちなみに、ペストは細菌によって感染し、高熱、頭痛、精神錯乱状態、皮下出血が生じるようですが、19世紀末に北里柴三郎らによってペスト菌が発見され、抗生物質での治療が可能となり世界的な感染は終焉したとされています。

さて、奈良高専に話を戻しましょう。コロナ禍は、学生のみなさんの生活にも大きな影響を与えました。特に今の3年生は、まず入学式が行われませんでしたし、新入生オリエンテーションも行われませんでした。いつもであれば、クラブ紹介も行われますが、これも実施されませんでした。高専に入って新しいことをはじめようと考えていた新入生にとっては、その機会がなくなってしまったことは大変残念でありませんでした。

また、在学生についても、高専体育大会が中止されるなど学生生活にも大きな影響を受けたのが、2020年度のコロナ禍でした。今年でコロナ禍も3年目となり、学生生活も少しず

つではありますが戻ってきています。例えば、高専祭は制限付きで一日だけ対面での開催を行い、スポーツ大会も学年ごとに開催するなど感染防止対策を講じながら実施しました。

高専祭

今年は3年ぶりに対面による高専祭を開催しました。従来は、本館建物を中心に体育館や玄関前広場、第一体育館に通じる通路を使って、各科による学科展や文化部系クラブの展示・演示、模擬店などがありました。来校者も在学生の保護者をはじめ高専近隣住民の方々、またOBやOGが顔を見せられることもあり、教職員にとっても楽しいイベントでした。しかしながら、コロナによって人が密集するようなイベントは中止や延期、あるいは規模縮小となってしまいました。特に、今の3年生は入学当時から、このような環境が続いており、高専に入学して、楽しみにしていた学生生活を十分送ることができていないことは非常に残念に思っていました。高専祭は高専祭実行委員会が主導して実施している学生によるイベントです。規模も大きく多くの実行委員によって成り立っています。実行委員会は多くの部門から構成されていて、部門間で円滑なコミュニケーションをとらなければなりません。時にはコミュニケーション不足で予定通りに進まないこともあります。しかし、授業では経験できない多くの経験を積むことで学生たちが成長する機会でもありましたし、終わった後の学生たちの満足そうな顔を見ることが出来るもの私たちの喜びの1つです。

今年はオンラインと対面のハイブリッド形式の高専祭となりました。対面での開催とはいっても、規模は縮小した開催となりました。来場者は本校学生のみ。人数も制限し人が密集しないようにしました。体育館ではパイプ椅子数を少なくし間隔を広く取りました。また、定期的に扉を全開し換気も行われました。これを学生が主体となって実現できるとことは、素晴らしいことだと感じますし、このようなことを考え実行した、高専祭実行委員会や学生会執行部の苦労は相当なものであったと思われます。さすが、高専生だと思いました。

スポーツ大会

10月27日(木)に、1年ぶりにスポーツ大会を実施しました。こちら学生会執行部の皆さんによって運営されています。高専祭同様に感染症対策には十分な気をつけながらの開催となりました。従来は、先輩・後輩など他学年の競技も見ることができ、学年を超えた刺激や学びがあり、学生の成長にもつながっていたと思っています。しかし、競技人数が多く密にもなりやすいため一昨年同様に学年別に時間を区切って開催しました。種目は、バドミントン、ドッジボール、バレーボール、縄跳び、リレー、タイピングが行われました。比較的コンパクトかつ短時間で全ての競技を終えることができましたが、競技種目が変わるたびに準備作業が必要となり、これを陰で支えている学生会執行部の皆さんには大変な苦勞をされていたように感じました。縄跳び競技では、綱の中を何人もの学生が順番に飛び越えなければならないのですが、飛び越える人と綱を高速で回す人の息の合った絶妙なタイミングを見ているだけでも気分が高揚してくるものでした。また、リレーは学科対抗ということもあり熱戦ではありましたが、中には担任の先生も参加するチームもあり、和気あいあいとした雰囲気もあり非常に楽しい競技でした。

最後に、次年度は充実した学生生活が送れるよう感染防止対策を講じた上で活動をできるだけ継続していきたいと考えています。学生・保護者のみなさまのご理解とご協力をお願い致します。





●機械工学科での授業

機械工学科1年 源 甲斐 匠

入学時、これからの学校生活に心を躍らせていましたが、慣れていない九十分授業に加え、成績についての心配や実習での緊張など、不安もたくさんありました。しかし、今ではそんな不安も薄れ、授業に臨むことができます。専門科目は初めてで知識がない分始めは分からない事だらけですが、機械に対する好奇心を湧かせてくれて、いろいろなことが学べるとても興味深い授業です。実習も失敗を恐れて緊張しつつも、作業が進むにつれて「面白い、もっと知りたい」と思えるようになり、楽しく学ぶことができます。課題やレポートなど大変なことも多々ありますが、この五年間でいろんな経験を積んで日々精進していきたいと思っています。

●授業・実験・実習などについて

電気工学科1年 加美 蒼 空

高専に入学してから、授業のスタイルが大きく変わった。1時間ごとに授業が変わるのではなく、一コマ90分の授業が一日2~4コマの授業形態。間の休憩時間がないことも珍しくなく、最初は戸惑ったが前期終了時には特殊な授業形態にも慣れることができました。そして、高専の授業といえば専門の授業。前期には三つの専門の教科があった。それぞれの教科ごとに特徴があり、自分たちが興味を持った分野なこともあり、楽しく学ぶことができました。後期から教科の入れ替わりが行われたが、引き続き高専での学生生活を楽しくしていきたいと思う。

●出会えた気がする。新しい自分に。

電子制御工学科1年 南田 海 琉

私は現在バドミントン部に所属しています。そこに至るまでにはストーリーがあります。私は、中学校3年間科学部、種類で言うと文化部、に所属していました。そして、その部活を通じて、「もっとプログラミングをしたい」と思い、この学校に入学することを決めました。入学後、部活動を決める時期になり、私は、「新しいこと探し」を試みたいと思いました。中学校の体育の授業で唯一できたスポーツがバドミントンだったため、バドミントン部に入部しました。完全にゼロからのスタートだったので、周りの人との実力の差は大きく、この先が不安になっていました。しかし、次第に私の中で、「負けていけない」という気持ちが強くなり、「もっとやってやる」と自分を奮い立たせ、過去の弱かった自分に別れを告げました。今でも実力は周り比べるとかなり劣っています。それでも、いつか追いつけるように頑張っています。

●電気技術研究会に入会して

情報工学科1年 中野 劉 建

私は電気技術研究会に入部して、ある一つの点で変えられたと思います。それは、科学技術に関する興味を実際に手を動かして体験していくことでした。弊同好会は主に電子工作やプログラミングなどを主体に活動しています。しかし、自分の中では講習を受けているだけでは不十分で、技術が身につけにくいと思いました。また、部長に「プログラミングは独学でできるから、もっとやりたいなら自分で学んでください」と言われ、自分は技術者を志しながらも、いまだに行動に移せていないという焦燥感もあったので、これを機にC言語を手始めに学習しました。

●入学式の宣誓者を務めて

物質化学工学科1年 中田 優 翔

入学式の宣誓者の仕事を頂いて、春休みの間に沢山練習したことを覚えています。宣誓している最中はもちろん緊張しましたが、同時にこの学校に入学して、これから勉強を頑張るんだと実感することができました。そして今、同じ1年C科のクラスメイトは面白い人達ばかりだし、寮では1年生皆で協力合って楽しく暮らすことができます。勉強は前期に比べても難しいと感じる事が多くなりましたが、授業は楽しいし後期から始まった実験も面白いものばかりなので、難しくても楽しい最高の学びができています。これからも高専で学びを更に積み重ねていきたいです。





本校では学生のキャリア教育を目的として、本科4年次、専攻科の選択科目として「学外実習(インターンシップ)」を設定しています。4年生は夏季休業期間に5日間以上、専攻科生は長期休業期間を中心に10日間以上の就業実習に取り組みます。業務日誌と実習報告書の提出、各科で開催される報告会での実習内容の発表を総合的に評価し、単位が認定されます。

企業においてインターンシップは、キャリア教育の観点、社風や業務内容などの理解を深めてもらう機会として活用されていますが、それに加えて採用活動や入社後のミスマッチ防止に活用される場合も増加しており、応募に際して志望理由の明確化等、事前準備の重要性がさらに増しています。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が残る中での実施となりましたが、公募制の企業を含めて231件の募集案内をいただきました。5月以降、各学科、専攻科においてガイダンスを実施し、その後実習先企業の調整と決定を行いました。

本年度の学外実習では、本科4年生98名(機械工学科:27名、電気工学科:32名、電子制御工学科:12名、情報工学科:8名、物質化学工学科:19名)、専攻科生32名(システム創成工学専攻・機械制御システムコース:11名、電気電子システムコース:10名、情報システムコース:8名、物質創成工学専攻:3名)が企業等での就業実習に参加させていただきました。学生からは実習内容はもちろんのこと、先輩社員の方々や他高専生との交流等を通して有意義な経験が得られたと聞いています。将来のキャリアを具体的に考える貴重な機会の一つとして、来年度以降も学生の積極的な参加を期待しています。

最後になりましたが、本校学生の受け入れをご快諾いただきました企業等の皆様、各学科・専攻科において学生の事前指導や実習先企業の調整などにご尽力いただきました教員の皆様、事前講習特別講演会にてご講演いただきました、ならジョブカフェ キャリアコンサルタントの浅見 香津江 様、ならびに関係いただきました皆様に深く感謝申し上げます。



情報工学科4年
山口 璃桜

私は今回パナソニックコネクト株式会社様の10日間のインターンに参加しました。このインターンでは、インフラの運用・管理の一部である防災無線・ETC・音響設備・公共交通機関などの様々な施設や設備を見学しながら、第一線の様々な分野で活躍されている社員の方と接する機会を提供いただきました。現場に必要なスキルや、高専で学んだ知識をどのように活かすことができるのかなどの気付きを得ることができた素晴らしい機会でした。また、情報工学科を卒業後の働いている自分を想像することができるようになりました。卒業後、充実した生活を過ごせるよう、残りの学生生活の中で様々なことにチャレンジしてみようと思いました。



専攻科
システム創成工学専攻
情報システムコース1年
吉岡 春彦

私は奈良先端科学技術大学院大学のソフトウェア工学研究室にお世話になりました。こちらの研究室は学生の発表練習が盛んで、本が豊富にあることが印象的でした。得られたことが2つあり、まず英語の重要性を実感しました。国際発表に向けた発表練習を見学させていただき、自分と少しだけ年が離れた学生が英語で説明する様子を見て、自分の能力不足を痛感しました。2つ目は統計解析の理解が深まる機会となりました。研究の手伝いとしてアンケートと統計解析をさせていただきました。検定方法とその特徴を教えていただき、初めてR言語(統計解析用の言語)のプログラムを書きました。この経験を通してさらに研究に専念しようと思います。

社会工場見学報告



電気工学科4年
甲元 陸羽
橋本 大希

私たち電気工学科4年生は、午前中にシャープミュージアムを見学しました。シャープの創業の由来や透過ディスプレイ等の最先端技術を学びました。特に、太陽光を効率的に天井方向へ取り込み部屋全体を照らす採光システムに驚きました。昼食をとるために訪ねた伊賀上野城では、藤堂高虎が築き、大阪城と並んで日本一の高さを誇る高石垣が圧巻でした。午後にはパナソニックライティングシステムズ(株)伊賀工場を見学しました。部品点数を減らして作業効率を上げる取り組みや、LEDの長寿命化の要であるヒートシンクの小型・軽量化などを教えていただき、シーリングライトの製造工程などを見学させていただきました。今回の社会工場見学で得た貴重な体験を進路選択等に活かしたいと思います。

学外研修報告



専攻科
システム創成工学専攻
電気電子システムコース2年
増本 千裕

私たちは、滋賀県米原市にある東レ・カーボンマジック株式会社へ行きました。ここでは、炭素繊維を用いた製品の企画・開発や設計を行っており、車、バイクのボディから義足に至るまでさまざまな製品を製造していました。製造された製品を触らせていただくと、その強度の高さと軽さにも驚くとともに、炭素繊維が多くのシーンで活躍できる素材であることを実感しました。また、受注生産や試作品などの製造がほとんどであり、1つ1つの製品に対して型作りや、品質検査が行われていました。そのため、手作業も多く、私たちエンジニアは、スキルだけでなく丁寧な作業も常に求められているということを再認識することができました。





学生の活躍

令和4年度 全国大会など



水泳部

全国高専体育大会に出場して

機械工学科2年 安田 怜生

私たち水泳部は、愛媛県松山市で行われた全国高専体育大会に出場してきました。コロナ対策で出場枠が狭められた中、近畿大会を勝ち抜いて7名が出場権を獲得し、1種目で1位、1種目で2位、2種目で3位、さらに昨年残念にも中止されたリレー種目である女子リレーも2位に入賞するなど、好成績を収めることができました。今年出場が叶わなかった男子リレーも含め、来年さらに大人数で全国へ行けるようシーズンオフの間も陸トレ中心に一生懸命取り組んでいます。コロナ禍で大変な状況にもかかわらず大会を開催していただき、またたくさんの方に応援をいただき、この感謝を忘れず、これからも練習に励みます。



ハンドボール部

全国高専体育大会ハンドボール競技に出場して

電気工学科4年 原 大河

僕たちは9月に高知県で開催された全国高専体育大会ハンドボール競技に出場しました。新型コロナウイルスの影響により練習時間が少なく、練習試合もほとんどできない中で不安もありましたが、無事に近畿地区大会での優勝を果たして出場できました。令和元年および3年度の全国高専体育大会では、予選敗退と悔しい結果に終わりました。今年こそは全国大会優勝を目指し、OBの方々にも協力していただき、部員一丸となって練習に励みました。結果は振るいませんでしたが、みんなで同じ目標に向かって努力できたことは良い経験となりました。先輩たちには全国大会優勝を果たして欲しいです!



陸上競技部

2022年度全国高専体育大会(陸上競技)に出場して

物質化学工学科4年 明石 駿汰

私達陸上競技部は、8月21日、22日に愛媛総合運動公園(ニンジニアスタジアム)で行われた全国高専大会に男子5名、女子2名が出場しました。今大会に至るまで、コロナ禍の影響で練習が出来ない時期もありましたが、学年の垣根を越えて協力し、競い合うことで、互いに実力を高め合うことが出来ました。その結果、1人1人が力を発揮し、1種目で準優勝、3種目で入賞という成績を残すことが出来ました。この大会の経験をもとに、これから各自の課題点を修正し、来年はさらに良い結果を残せるよう頑張りたいと思います。また、支えてくれた方々によってこの舞台に立つことが出来たことへの感謝も忘れずに精一杯日々の練習に取り組みたいです。



柔道部

全国高専大会に優勝して

機械工学科2年 石田 眞子

私は、8月27日~28日に香川県で開催された全国高等専門学校体育大会柔道競技、女子個人無差別級に出場しました。

高専の全国大会に出場するのは、今回が初めてでしたが、日々練習して下さった先輩方や、日々指導し練習してくれた家族、応援してくれた友達のおかげで自分より大きい相手を投げ、優勝することができました。また、引率して下さった顧問の先生が私の担任の先生であったため、試合をあまり緊張することなく、楽しんで臨めたことも優勝の要因だと思います。

これからも柔道が出来ることに感謝し、元気に楽しみながら日々の努力をコツコツ積み上げ、来年の全国大会も優勝します!!



バドミントン部

第57回全国高専大会バドミントン競技に出場して

機械工学科2年 横田 侑空

物質化学工学科1年 奥村望央 北村穂佳 濱田明莉 藤井理莉

私たちは丸亀市民体育館で開催された、第57回全国高専大会バドミントン競技に出場しました。

5人中4人が1年生で試合にも慣れない中、みんなで声をかけながら精一杯頑張りました。しかし、緊張で思い通りに動けず、男子シングルス・女子団体・女子ダブルスは初戦敗退、女子シングルスでは1回戦を突破するも全国の壁は高く、2回戦で敗退しました。来年は、男子・女子ともに団体での出場も、全国大会という大きな舞台でいつも通りの力を発揮できるようにしたいです。そのためにも日々の練習1日1日を大切に、昨日の自分より強くなれるように努力していきます。そして、しっかりと良い成績を残せるように頑張ります。お互いにアドバイスなどをして、部活全体で強くなっていきたいです。



ロボコン2022 近畿地区大会

Aチーム 電子制御工学科4年 松永 奏良

10月23日、高専ロボコン近畿地区大会が行われました。私はAチーム「三笠」のチームリーダーとして出場しました。

今年度の高専ロボコンのテーマは「ミラクル☆フライ」。自作した紙飛行機をロボットが飛ばし、5か所の円形スポット、2か所の縦型滑走路、2種類の筒型ベースにランディングさせていく対戦型競技です。私たちは予選第一試合で全国の地区大会で唯一のVゴールを達成しました。第二試合でも41点と高得点を獲得し、予選を1位で通過しました。準決勝ではマシンにトラブルが発生しそこで敗退しました。

しかし、3人操縦による現場対応力やVゴールを達成したことが評価され全国大会への推薦とアイデア賞をいただきました。

11月27日に両国国技館で全国大会が開催されます。私にとっては1年生以来、3年ぶりの全国大会となります。ベストパフォーマンスを発揮できるように全力で取り組みますので、応援よろしくお祈りします。



特報!
Aチーム
全国大会
優勝!

Aチームは全国大会の全試合でVゴールを達成し、優勝しました!応援ありがとうございました!

Bチーム 電子制御工学科1年 吉岡 優武

10月23日、高専ロボコン2022近畿地区大会が行われました。奈良高専Bチームは「ONE-BOX」で出場しました。Bチームは1年生だけのチームで、まだ知識が全くないため、高得点が狙えるロボットは作れませんでした。外装にこだわったロボットを作りました。ロボットをペットボトルやプラスチックのゴミ箱に見立て、紙である紙飛行機はきちんと分別しようというメッセージを込め、今でいうSDGsを意識しました。高得点は取れませんが、毎試合確実に点が取れるロボットを目指しました。全てのことが初めてで、分からないことがたくさんありながらも、1年生全員で協力し、毎試合精度よく紙飛行機をスポットに乗せられるロボットを作ることができました。その甲斐あって、大会当日ではいつも通りのパフォーマンスを発揮し、4試合全て2点を獲得して見事、準優勝しました。



秋季スポーツ大会について

電子制御工学科4年 阪本 靖大



10月27日にスポーツ大会を無事に開催することができました。今年度春季スポーツ大会は、新型コロナウイルスによる影響を鑑みて中止となってしまったので、非常に良かったです。

今回開催した競技は、バドミントン、ドッジボール、リレー、バレーボール、8の字大縄跳びでした。また、個人競技としてはタイピング大会を開催いたしました。今年度から新競技として8の字大縄跳びを取り入れてみました。こちらは概ね好評で盛り上がっていたので、私たちにとっても非常に喜ばしい限りでした。

この状況下であるため、昨年度に引き続き色々制限がある状態でのスポーツ大会の開催ではありましたが、多方面からの協力もあり、特に大きな問題も発生せず無事に終わらせることができました。この場を借り、感謝を申し上げます。

今はご時世柄、行える競技に制限がありますが、緩和されればさまざまな競技を取り入れることが可能になります。来年度以降のスポーツ大会は、参加者学生より頂いた意見などを参考にしつつ良かった点はそのまま継続し、改善できる点はなおしていき、より楽しんでもらえるように行事を運営していこうと考えています。



第1回CyberSakura優勝について

情報工学科4年 島岡 宏彰

私たちは3月に開催された「第1回CyberSakura」の決勝ラウンドで優勝しました。2021年8月から始まった練習会を通して、サイバーセキュリティに関する知識や技術を身に付けました。予選で上位3チームに入り、決勝に出場しました。決勝と予選はコンピュータを2台使うため、役割分担を決め、より多くのスコアを獲得できるように準備をしました。想定通りに進めることができないときもありましたが、協力して別の手法を考え進めていくことができました。出場は3年生までのため最終で最後の参加になりましたが、サイバーセキュリティについて実践的に学ぶ良い機会になりました。



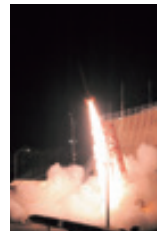
JAXA観測ロケットS-520-32号機実験に参加して

専攻科 システム創成工学専攻電気電子システムコース2年 上垣 冬季



©奈良高専/JAXA

鹿児島県内之浦宇宙空間観測所で実施された観測ロケットS-520-32号機の打ち上げオペレーションに参加しました。この観測ロケットはMSTIDと呼ばれる電離圏擾乱現象の観測が目的で、2022年8月11日23時20分に打ち上げられました。私は全電子密度観測機(GNSS)を担当し、GNSSの設計・製作からロケットへの組み込みまでの一連の作業は、JAXAの協力のもと学生主体で行いました。観測機器は高温、強振動下の厳しい環境での動作を保障するためJAXAの試験に合格する必要があります。試験になかなか合格できず実験に明け暮れる日々でしたが、無事に合格して打ちあがり、正常にデータを取得できた時は感動しました。この実験を通してエンジニアリングスキルやチームマネジメントについて実践的に学ぶことができ、とても貴重な経験となりました。今後は得られた観測データを解析していきます。



©JAXA

小学生向け3Dプリンター工作体験講座に参加して

機械工学科3年 鎌谷 恵衣・宮本 博司

私たちは9月17日・18日に大和郡山市内の長屋・ワタマチテラスで開催された「はじめての3Dプリンター工作体験 ~自分だけのスニーカーアクセサリを作ろう~」に参加しました。このイベントでは、私たち機械工学科の学生が中心となって内容を考え、指導も行いました。

趣のある長屋に3Dプリンターが。なんて、珍しいことでしょう。このイベントでは、アイデアをすぐにカタチにできるということから、児童の皆さんには3Dプリンターがより身近になっていくことを実感していただけたと思います。

学生スタッフにも、新たなしなやかな視点が生まれたと感じています。モデリングしてプリントだけではなく、「描いた絵を立体にしたり、様々な形を組み合わせたアートを掲げてみたり」と小学生ならではの柔らかな発想に触れたことも収穫でした。全体を通して反省点も多くなりましたが、それも全て含めて今後の大きな糧になったと思います。



令和4年度(前期)学生表彰<特別賞>

機械工学科2年 石田 眞子

第57回全国高等専門学校体育大会柔道競技 女子無差別級 優勝
2022年レスリングU17アジア選手権出場

物質化学工学科4年 明石 駿汰

第57回全国高等専門学校体育大会陸上競技 男子砲丸投 第2位

電気工学科3年 今元 賢

第57回全国高等専門学校体育大会水泳競技 男子200m自由形 第2位・男子400m自由形 優勝

電気工学科1年 前田 沙耶花・機械工学科2年 上中 理央

電気工学科2年 高田 葉奈・物質化学工学科2年 清家 莉恵

第57回全国高等専門学校体育大会水泳競技 女子4×50mフリーリレー 第2位

電気工学科4年 東 啓士郎・花野 日菜・福王 彩音

高専GCON2021(高専GIRLS SDGs × Technology Contest) 優秀賞・視聴者賞

情報工学科4年 岸本 千波矢・島岡 宏彰・

杉山 咲・竹田 岳人・田中 陽一朗

第1回CyberSakura優勝

※特別賞は全国大会またはこれに準ずる大会において、優勝または準優勝した個人または団体に授与されます。



学生会新役員紹介・活動方針

学生会会長: 宮本 博司(機械工学科3年)

学生会では、10月1日から新役員が就任し、新たなスタートを切りました。私、宮本博司は会長を拝命いたしました。短い任期ではありますが、学生会が学生の皆様の活力の源となりますよう、努力してまいります。また、学生会に関するご意見等あれば、お気軽にお申し付けください。どうぞよろしくお願いいたします。

副会長: 北田 恵裕(電気工学科3年)

この度学生会副会長に就任しました、北田恵裕です。コロナ禍であっても楽しめる学校生活作りにも最善を尽くします。よろしくお願いいたします。

副会長: 橋本 真悟(電気工学科2年)

皆さんこんにちは、学生会副会長の橋本真悟です。私は奈良高専を唯一のものにしたいと考えております。そのためには皆さんの応援、ご協力が必要です。どうぞよろしくお願いいたします。まずはコロナに負けないことから。

書記: 安養寺 伶央(物質化学工学科2年)

この度学生会書記に就任しました、安養寺伶央です。書記として会議の議事録を作成するなどの業務を完遂できるように努めます。

書記: 當城 優和(物質化学工学科1年)

この度書記に就任致しました、當城優和です。自分なりに努力や工夫をしながら、喜び勇んで努めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

会計: 乾 多恵(情報工学科2年)

この度会計に就任いたしました、乾多恵です。初めてのことでありますが、責任を持って努めてまいります。よろしくお願いいたします。

会計: 稲守 剣人
(情報工学科1年)

この度会計に就任しました、稲守です。会計としての責任感を持ち、自分の職務を全うできるよう、精一杯の努力を重ねていきます。



クラブ・同好会紹介

vol.26

体育部	文化部	同好会
アーチェリー 合気道 弓道 剣道 硬式テニス 硬式野球 サッカー 柔道 少林寺拳法 水泳	ソフトテニス 卓球 バスケットボール バドミントン ハンドボール バレーボール ラグビーフットボール 陸上競技	からくり 機械研究会 軽音楽 茶道 システム開発研究会 将棋 情報処理研究会 吹奏楽 美術 放送
		化学同好会 合唱同好会 クイズ研究会 現代視覚文化研究会 手芸同好会 生協学生同好会 数学同好会 電気技術研究会



弓道部

情報工学科3年 辻浦 花季

こんにちは、奈良高専弓道部です。奈良高専の敷地内に弓道場があり、大会や審査に向けて日々練習をしています。現在、男子28名、女子14名の計42名で週5日間活動しています。入部時は初心者がほとんどですが、先輩方や外部コーチの先生から優しく丁寧に教えていただけるため、安心して弓道を学ぶことができます。基本は部員同士が教え合って稽古し、学年を超えて楽しく弓道に取り組んでいます。日々の活動を通じて、心身や高い集中力が鍛えられ、技術面だけではなく、礼儀作法などの日常生活でも役立つ知識も学べます。全国高専弓道大会優勝を目指して、切磋琢磨しながらこれからも精進していきます。



合唱同好会

情報工学科2年 鄭 佳音

こんにちは、合唱同好会です。合唱同好会は、毎週木曜日に活動しています。先輩後輩の仲が良く、楽しく交流できる自由な同好会です。
私たちは、秋に開催される高専祭に向けて日々練習に取り組んでいます。専門的な指導を受けて練習する訳ではなく、自分たちで歌って感じたことなどを互いに教え合っ、技術向上のために頑張っています。「合唱を楽しむ、楽しんでもらう」をモットーとしているので、まずは自分たちが楽しむべく、歌う曲は自分たちで好きな曲を選んで歌っています。合唱経験のない人でも気軽に活動できる同好会です。歌うことが好きな方、経験はないけれど合唱してみたい方、ピアノの伴奏をしてみたい方などはぜひ、大視聴覚室へ足を運んでみてください。

学生支援センターから

カウンセラーだよ!

<持続可能な自分で居られるように>

カウンセラー
(臨床心理士・公認心理師)
福田 道代



この頃よく目にする「SDGs (持続可能な開発目標)」。この中の「持続可能性」は、将来にわたって機能を継続していくシステムやプロセスを指します。この意味は、人の心の持ちようとしても考えられそうです。すなわち「長期継続して活動できますか?」「無理が続いていませんか?」という意味で使えそうです。
心に負担がある状況、例えば睡眠が不安定、やるべきことがやれ

ない、自分の目標としていることが出来ない、人間関係がしんどい、突発的な事象が身近に起こった、など、短期間なら超えられるかもしれないですが、長期間無理が続くと、心が疲弊します。持続可能とは言えない状態です。

自分が自分らしく居られるように、長期的に自分を保つにはどうしたらよいか、例えば生活を規則正しくする、何がストレスになっているか振り返る、時々自分に優しくする、など、持続可能になる戦略を、カウンセリングで共に考えてみませんか。カウンセラーはあなたが将来にわたって自分らしく居られるお手伝いをしたいと思います。

学生支援センター (学生相談)
Webページ

<https://www.nara-k.ac.jp/life/shien/soudan/>



あるべきようわ

むかしむかし、京都に明恵上人という、偉いお坊さんがいらっしゃいました。お坊さん曰く「人は阿留辺畿夜宇和(あるべきようわ)の七文字を持(たも)つべきなり。僧は僧のあるべきよう、俗は俗のあるべきようなり。乃至(ないし)帝王は帝王のあるべきよう、臣下は臣下のあるべきようなり。このあるべきようを背くゆえに一切悪しきなり」

のちの世になって河合隼雄という心理家が「明恵を夢を生きる」で解説しています。「『あるべきようわ』は『あるがまま』でも『あるべきよう』でもない。その時その場において『あるべきようは何か』を問いかけ、その答えを生きようとする」と。
立ち止まったら唱えてみよう「阿留辺畿夜宇和」、あるいは、支援ルームへ。

○支援ルーム

総合情報棟1階
月曜日～水曜日 9:00～17:00、
木曜日 10:30～14:00

海外インターンシップ(シンガポール・ナンヤンポリテクニク、8/12-9/10)参加報告

専攻科 物質創成工学専攻1年 中村 烈

インターンシップでは、NYP (Nanyang Polytechnic, Singapore) での研究、プレゼンを経験することができました。また、インターンシップを通して英語で話すことの難しさ、自身の英語力の未熟さを痛感しました。しかし、現地の友達との会話でさえも英語の練習になる環境はとても素晴らしいものでありました。この経験を活かし、今後の研究活動、英語学習に励みたいと思います。



★海外インターンシップ研究タイトル

『水酸化カルシウムを用いたセルロースの抽出』

前処理に水酸化カルシウムを用い、とうもろこしの茎からセルロースの抽出を行なった。前処理の処理時間(1h~15h)、処理温度(25~80℃)を変化させてもセルロースの収率はあまり変わらなかった。また、前処理を行わずに抽出を行なった場合でも収率や抽出成分に大きな変化はなく、前処理を操作から省くことができる可能性が示唆された。

専攻科 物質創成工学専攻2年 安藤 うた

シンガポールの皆さんはとても温かく、刺激的で充実した1ヶ月間でした。本インターンシップでは、私が現在行っている研究とは異なるテーマを頂いたおかげで、視野がより広がりました。また、多文化が共存している国で過ごしたことで、コミュニケーションツールとなる英語の必要性を痛感しました。自分の知識を増やす手段として英語を使うことの意味を実感したので、今後も英語学習に励もうと思います。



★海外インターンシップ研究タイトル

『嫌気性消化に基づく食品廃棄物の価値化』

汚泥と食品廃棄物を用いて嫌気性菌を培養し、様々な添加物と食品廃棄物の共消化によって、再生可能エネルギーとして利用できるバイオガス生産の促進を試みた。その結果、冷蔵庫から取り出した微生物と比べて、pH 6.7-7.3付近で培養した微生物を用いたときにバイオガス生産量が增大した。さらに、添加物としてGranular activated carbonを用いたときに最もバイオガスが生産された。

留学生紹介



電子制御工学科3年
フザイファ

ムハマド フザイファ ビン スルクィフリ
MUHAMMAD HUZAIFA BIN ZULKIFLI

こんにちは、マレーシアから来た留学生、フザイファと申します。日本に来る前に、2年間日本語を勉強しました。でも、コロナのせいで、対面での授業はあまりしませんでした。勉強を頑張って試験に合格しました。そして、日本に来てからクラスメイトと勉強できています。最初は日本人の会話のスピードはあまり聞き取れませんでした。今はどんどん慣れてきました。日本の好きなのは、場所と場所を簡単に移動できることです。私は観光が好きですから、いつか九州と北海道へ行きたいです。私はずっと前から、ロボットのことに興味があります。だから、ロボットと関係がある学科を選びました。日本はロボットの作成が世界中で有名なので、高専に入ってもっと勉強したいです。これからよろしくお祈りします。



物質化学工学科3年
チェン

リー カイ チェン
LEE KAI CHENG

こんにちは、マレーシアから来た留学生のチェンと申します。奈良高専に来る前に、母国で奨学金をもらって、2年間の日本語予備教育を受けました。小さい頃から、海外留学を夢見ていたので、今こんな機会をもらえて、本当にうれしいです。物質化学工学科を選んだ理由としては、化学や生物学に興味があるので、その分野に関する知識をもっと深めたいからです。奈良高専で化学や生物学の知識を身につけたら、これらの知識が将来、エンジニアになるのに役に立つと思います。この三年間で新しいことなどに挑戦したり、体験したりしてみたいです。



物質化学工学科3年
ナン

スサラン スニター
SOUKSAMLAN SOUNITA

こんにちは、ラオスから来た留学生です。ナンと申します。奈良高専に来る前に、東京日本語教育センターで日本語や一般的な科目を勉強しました。東京日本語学校で一年間勉強するはずでしたが、コロナウィルスのせいで、来日するのが延期され、8ヶ月で勉強することになりました。日本語授業や生活などに適応する事はとても大変でしたが、最後に日本語能力試験を合格出来て、奈良高専に進学しました。

物質化学工学科を選んだ理由は、数学や、化学のことが好きだからです。日本に留学した理由は、世界レベルな新しい技術や、理想的な考え方を習いたいからです。

今から奈良高専で勉強して、様々な経験をしたいです。また、日本とラオスの交流を深め、新しく楽しいことをやってみたいです。これからよろしくお祈りします。



Library News

～図書館だより～

図書館と主な関連行事を紹介します

令和2年度～4年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、行事の内容や時期を変更しているものもあります。

科学道100冊

書籍を通じて科学者の生き方・考え方、科学のおもしろさ・素晴らしさを届けるプロジェクトとして選出された図書です。

名誉教授 宮本止戈雄先生より、本校学生の教育・研究に資するため寄贈いただいた後、逐次更新しています。



図書福袋

学生図書委員等が選定した図書を袋に入れ、ヒントとなるメッセージとともに飾り付けし中身が見えない状態で貸出をします。この本は貸出上限冊数の6冊とは別に借りることができます。昨年度末は一度延期となっていました、今年の6月に無事実施されました。



自動貸出返却機

本校学生は貸出と返却の両方、返却はどなたでも処理できます。詳しい使い方は、ホームページ掲載の学生図書委員作成の図書館紹介動画もご覧ください。



ブックハンティング (6月・11月)

学生図書委員を中心に、各クラスで希望図書を募り、書店で購入する活動ですが、現在はオンラインで実施しています。前期に購入した図書は、1階奥の特設コーナーに並んでいます。後期分も実施後に逐次並ぶ予定です。



読書感想文コンクール

夏休みに低学年を中心に実施しています。最優秀賞・優秀賞に選ばれた感想文は全文図書館だよりに掲載されます。佳作以上の受賞者には表彰状・図書カードの副賞が贈られます。

多読表彰

年末に貸出冊数の多いクラスおよび個人を確定し、1月に表彰します。個人多読賞上位10名には表彰状・図書カードの副賞が、貸出上位5クラスには表彰状・図書購入権の副賞が贈られます。



学生図書委員会の活動報告

情報工学科4年 石村 涼介

令和4年度図書委員会委員長の石村です。今年度の学生図書委員会の活動を報告します。

図書委員会では広報プロジェクト、高専祭プロジェクト、福袋・読書週間プロジェクトという3つのグループに分かれて活動しています。また、図書委員会全体で年2回のブックハンティングを実施しています。コロナ禍のため、オンラインでのブックハンティングを実施しました。

広報プロジェクトでは、図書館だよりにおいて図書館の宣伝やオススメの本の紹介を行います。

高専祭プロジェクトでは、11月上旬に開催される高専祭にて出展を行います。しかし今年度もオンライン主体の開催となったため、高専祭のホームページ上での図書館紹介を企画しています。

福袋・読書週間プロジェクトでは、テーマを設けた福袋に本を数冊入れ、読書週間にその貸し出しを行います。今年度は6月に一度実施し、袋を開けるまで分からないワクワク感を楽しんでもらいました。

このように、私たちの図書委員会は、本の魅力を伝えるために日々活動しています。本には、本の数だけ様々な世界が広がっていて、ページをめくるだけでその世界に没入できます。

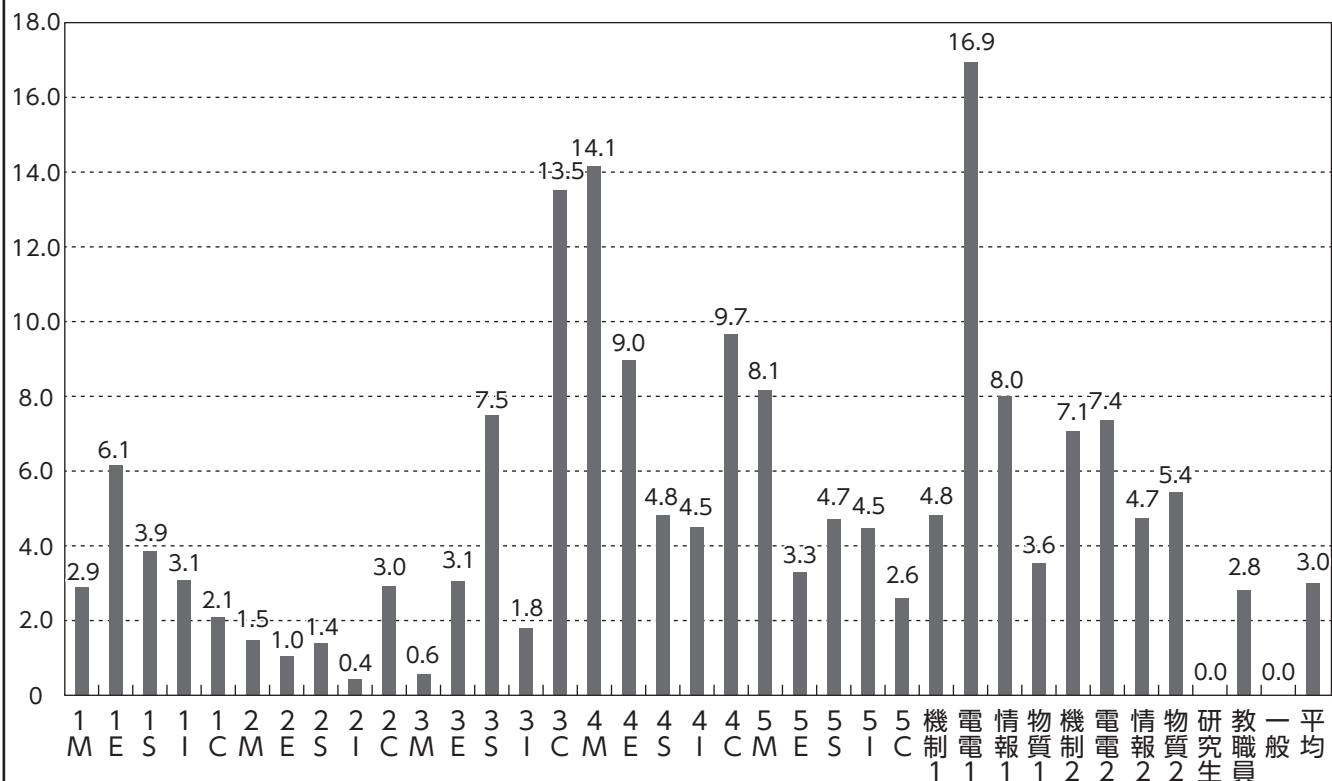
ぜひ一度図書館に足を運んでみてください。素敵な一冊に出会えるはずです。

また、上記の活動に興味のある学生さんは図書委員会に参加してみてもはいかがでしょうか。図書館や本を別の角度から見られるかもしれません。

図書館利用実績

合計冊数5,983冊

クラス別一人当貸出冊数(2021年4月~2022年3月)



第56回奈良高専祭の実施～対面実施への移行～

高専祭実行委員長 電気工学科4年 水口 旭

去る11月5日、6日に第56回奈良高専祭をオンラインとオフラインのハイブリッド形式で開催しました。今年のテーマは『集まれ高専の森 ～再発見!高専祭の魅力～』ということで、昨年に引き続き、ホームページやオンラインでの作品展示に加え、学生会執行部からの提案で対面での文化発表会、そして念願の花火大会を実施しました。

今年の高専祭実施の裏側には、読めないコロナ情勢、ほぼノウハウ無しでのオフライン実施など、多くの課題がありました。年度当初は、コロナ情勢も不穏で、今年度もオンラインのみでの実施になると考えていました。ところが、新規感染者数の減少もあり、オフライン実施も期待できそうな状況になりました。その中で、学生企画や各種展示への参加者、指導される先生方、高専祭実行委員の負担を考えると、急にオフライン実施に移行する判断は難しく、苦悩の日々が続きました。そして、高専祭の2ヶ月前に学生会執行部の提案で背中を押され、オフラインでの実施を決定しました。

そして高専祭当日は、これまでの準備不足とオフラインでの実施経験の無さから、多くのトラブルが発生し、参加者には残念な思いをさせてしまったと思います。一方で、「実施してよかったと思う」、「大変な中、頑張ったと思う」、「花火すごかった」などの温かいコメントもいただき、心救われる思いもしました。今年の高専祭は、学生会執行部の皆さん、放送部の皆さん、各種企画・展示に参加してくれた皆さん、そして先生方の協力なしには、到底実施することはできなかつたと思います。ありがとうございました。

そして、オンラインからオフラインに移行するにあたっての課題も多く見つかりました。今年の経験をしっかりと引き継ぎ、来年こそは従来通り(とまではいけなくとも)、参加者が十分に満足してくれる、オフラインでの高専祭実施につなげられればと思っています。

来年度もどうかご協力よろしくをお願いします。



学生課窓口 のご案内

～保護者の皆様へ～

教務係 0743-55-6033

授業、定期試験、教科書、学籍異動(休学・復学・退学・卒業)欠席・忌引・公欠・出席停止、大学編入学、専攻科、インターンシップ、学生証、住所・保証人等変更、在学・成績証明書 など

学生係 0743-55-6034

奨学金、高等学校等就学支援金、授業料等の免除・徴収猶予、課外活動、コンテスト、自転車・単車通学、免許、学割、通学証明書、就職 など

入試係 0743-55-6032

入学試験、体験入学、入試説明会、研究生・聴講生 など

寮務係 0743-55-6035

寮生の生活、寮の諸経費、在寮証明書 など

保健室 0743-55-6172

保健衛生、カウンセリング相談予約、学生生活での怪我の保険 など

学生関係の担当窓口は次のとおりです。用件により該当する係の電話番号へ直接お問い合わせください。受付時間は平日8時30分～17時です。学生の呼び出しや伝言は行いませんので、あらかじめご了承ください。

CAMPUS について

本校では、広報誌「CAMPUS」を11月と3月の年2回発行し、在学生の保護者の方々へ送付しています。また、「CAMPUS」は本校ホームページ(トップページ>学生生活>CAMPUS(広報誌))にも掲載しています。

「文化発表会」を開催!

学生会会長 機械工学科3年 宮本 博司

2022年11月6日(日)に、高専祭実行委員会と学生会執行部が協力し、高専祭内イベントとして「文化発表会」を開催いたしました。

近年の社会情勢により、学内外問わず様々なイベントに感染対策等による制限が課され、文化部等の課外活動団体も、発表の機会が減少しています。本年度の高専祭も花火大会を除いてオンラインでの開催となり、文化部等の発表をリアルで楽しむことが難しい状況でした。

そこで、9月上旬に学生会執行部より、高専祭実行委員会に対して、本イベントについての提案を行い、感染対策を十分に実施したうえで、対面での開催が決定されました。

本イベントは、文化部等の課外活動団体のための発表機会を用意し、日頃の活動成果を学内向けに発表していただくことを目的としました。展示発表5団体、舞台発表3団体が参加し、魅力的な発表が繰り広げられていました。

展示発表では、学生の皆様の個性や技術が存分に詰まった独創的な作品を多く見ることができました。こういった作品は、まさに高専らしい知識と技術の集大成といえるでしょう。舞台発表では、音楽系の発表が実施されました。多くのジャンルの音楽が披露され、会場が一体となって楽しんでいる様子が見られました。

やはり、画面越しでのオンライン発表とは違い、オフライン発表はリアルな体験ができるため素敵であると感じます。例年のオフライン高専祭のように盛大なものではなく、ごぜんまりとした発表会となりましたが、様々な工夫が凝らされており、文化発表会としての良さを十分に感じていただいたのではないのでしょうか。

今年はこのような形でイベントを開催しましたが、来年は盛大な高専祭を開催できることを願っております。また、本イベントの実施のために準備してくださった各文化部等の関係者様、高専祭実行委員の皆様、運営においてサポートしていただいた教職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

これからも学生会では、会員の皆様にとって有意義なイベント等を企画してまいります。



キャンパスメンバーズ制度 是非ご利用ください

本校では、奈良国立博物館との連携による「キャンパスメンバーズ制度」を導入しています。

学校と国立博物館が連携を図ることによって、文化や歴史を学ぶ場や機会を提供すること、世界遺産や美術に親しむ機会を増やすことで、より豊かな教養と感性を身につけていただくことを目的としています。

本校学生・教職員が学生証・職員証を提示することで、以下の特典を受けることができますので、是非この制度をご活用ください。

- 主な特典
- 平常展・特別陳列の無料観覧
- 特別展の観覧料金割引 など

特別展「春日大社 若宮国宝展一祈りの王朝文化―」

会期：令和4年(2022)12月10日(土)～令和5年(2023)1月22日(日)

編集後記

今年の高専ロボコンは、紙飛行機を正確に飛ばす技術を競いました。不安定な紙飛行機をいかに安定飛行させるか、相当悩んだことでしょうか。Aチームが出した答えは「スピン安定」、コマの原理です。翼のついた紙飛行機をスピンさせる、そんなことができるのかと思いますが、見事な制御技術でした。このように解決策は、実は身近なところにあたりります。学生さんの柔軟な発想力には驚かされるばかりです。 奈良高専広報センター